

古川なおきレポート

横浜市議員 古川なおきの 政務調査報告

一月刊一 2010年9月15日



親心を育てあたたかい社会へ

皆さんお元気ですか！

猛暑の夏も終わり、朝夕は涼しくなってきましたね。今年の夏休みは、インターンの学生たちと丹沢へキャンプに行きました。川の水が透き通っていて、夜の星空も美しく、遠くに行かなくても素晴らしい自然があることを再認識しました。神奈川県の良い自然に感謝したいと思います。

●天使の微笑み

さて、今号では、埼玉県教育委員長の松井和さんの講演や著書から、感じたことを書かせていただきます。

「どんなにひねくれた高校生でも、どんなに苦しそうで危機に陥っている大人でも、一歳児に微笑みかけられると嬉しくなります。まわりに見ている人がいなければ微笑み返します。幼児とのやりとりは、人間に、自分は本質的に善だ、ということを感じ出させてくれるのです。」（松居和著「なぜわたしたちは0歳児を授かるのか」より抜粋）。7ヶ月になる我が子を眺めながら、自分も実感しています。

他人のお世話にならなければ生きていけない乳幼児。しかし、この乳幼児から受けるエネルギーは素晴らしいものがあります。福祉サービスの対象であるはずの絶対的弱者の乳幼児が、私たちに育児をさせることで、忍耐強さや人を思いやる心、やさしい心を教えてくれるように感じます。しかし、現在は少子化、核家族化が進み幼児と接する機会が、社会全体として減ってきています。何となく社会がギスギスしているのもそれが原因かもしれません。

●一日保育士体験で親心を育てる

埼玉県では、保育園に通っている子どもの保護者を対象に、参観ではなくスタッフとして一日8時間保育園で働く「一日保育士体験」を行っています。保育士さんの現場を体験することで保護者と保育士さんとの理解が深まり、育児に対する視野が広がり、親心が育つ効果があります。また、保護者同士のつながりもでき、親の社会性も育まれます。横浜市内でも一部で同様の保育士体験を実施している園もありますが、私は横浜市内にも本格的に広めたいと思います。

親が子どもを育てる力が弱まった時、社会から忍耐力が薄れ、家庭崩壊が幼児虐待や犯罪という形で社会に還ってくるといわれます。家族をはじめ人と人との関係が以前に比べて希薄な昨今、乳幼児と多く関わることが人と人と

の絆を深め、お互いに支え合う、思いやりのある社会の実現につながると思います。

今、横浜市では待機児童を減らすために保育園を増設しています。来春からは駅前の保育園に一度集まり、周辺の保育園へ移送するサービスも希望が丘でスタートします。延長保育などのニーズにも応えるよう努力しています。しかし、育児を行政サービスに依存しすぎると、本来の親心が育ちづらくなるように思います。保育サービスのニーズは高く、行政は量的整備に追われていますが、親心の育成や保育の質を高める視点も忘れてはならないと思います。また、子どもを産み育てたい、親になりたいと思っている人への医療的支援制度も充実させていく必要があります。

●あたたかい社会を築きたい

このレポートをお読みいただいている全ての皆さんも乳幼児の時期がありました。砂場で遊んでいるだけで幸せだった時代を思い出すこと、駆け引きがない友人を持ち絆を深めること、家族や親友など利害ではなく、信頼できる人間関係を築いていくことが、あたたかい社会を築ききっかけになるように思います。横浜市も乳幼児と多くの人がふれあい、人と人とのコミュニケーションを促進することを理念として掲げ、様々な政策を立案すべきだと思います。厳しい財政状況の中、さらなる行財政改革を進めていかなければなりません。一日保育士体験などの人の心や人間関係を深めることに注目した政策にも今の行政は力を入れていく必要があると思います。

早速私も一日保育士体験をさせていただき、次号でレポートさせていただきますので、ご期待ください！

横浜市議員 古川なおき

みなさまのご意見を
お待ちしております！

※9月3日より平成22年横浜市会第三回定例会が開かれています。また、決算特別委員会もスタートします。本会議や決算特別委員会の局別審査はどなたでも傍聴できます。委員会の日程は横浜市のホームページをご覧ください。古川事務所へお問い合わせください。

インターン生募集！

古川なおき事務所では、古川なおきの政務調査をサポートしていただけるインターンの大学生を募集しています。2面のような調査や各種取材などさまざまな活動があります。ご家族からの推薦も受け付けています。お気軽に事務所へ連絡ください！

古川なおきプロフィール
県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員松沢成文（現在神奈川県知事）秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選（26才最年少）
平成19年4月 4期連続当選
現在 平成22年 市民・消防委員会 副委員長
同 市会運営委員会 理事
自民党横浜市議員団所属
横浜市会 F C キャプテン（対戦チーム募集中！）



みんなで健康増進！& 市政について気軽に語り合いませんか？
政務調査活動の一環として「市民の皆様のご意見を」直接うかがう

朝ウォーキング

日時：10月16日（土）朝7～8時半
集合場所：こども自然公園（大池公園）正面入口
★参加ご希望の方は、当日直接、集合場所にお集まりください。



敬老パス(敬老特別乗車証) アンケート集計報告!

皆様からご意見をいただいた敬老パスについてのアンケートの結果を報告します。

Q1 <70歳以上の方への質問> ①持っていない
敬老パスを
持っていますか?

はい: 86%
いいえ: 14%

②持っている
→その理由は

無回答 25%
利用者負担額が高い 25%
利用交通機関が少ない 50%

②持っている
→利用回数は?

年に数回 4%
月数回 18%
ほぼ毎日 17%
週に数回 61%

Q2 敬老パスで利用する交通機関は?

①バスと地下鉄の両方: 52%
②バス: 38%
③シーサイドライン: 8%
④地下鉄: 2%

Q3 敬老パスの良い点、効果があると思うことは?

公共交通の利用拡大 13%
外出が増えた 15%
まちの活性化 6%
消費経済効果 8%
マイカーの軽減 12%
介護の予防 7%
健康増進 14%
交通費軽減 25%

Q4 <70歳以上の方への質問> 敬老パスの負担額は?

①現行のままでいい: 60%
②負担が高すぎる: 24%
③もっと高くてもいい: 16%

Q5 <70歳未満の方への質問> 敬老パスを知っていますか?

はい: 100%

Q6 <70歳未満の方への質問> 対象年齢になったら利用しますか?

①現行制度なら使う: 32%
②負担増でも使う: 19%
③必要ない: 17%
④その他: 32%

その他(主なもの)
・その時になってみないとわからない
・必要になり使わざるを得ないと思う
・対象になったときの制度により判断する
・駅から家が近く、必要ない
・ワンコインが平等で良いと思う
・財政難のため、廃止すべき

今回のアンケートには153回の回答をいただきました(9/15)。70歳以上の方が73%、70歳未満の方が27%でした。

ありがとうございました

Q7 「皆様からのご意見」を参考に古川なおき学生インターンが考えてみました。

【敬老パスの目的…高齢者の社会参加を支援し、地域社会との交流を深め、豊かで、充実した生活を送れるようにする】
【現行制度及び各見直し案のメリットデメリット】

	メリット	デメリット
現行制度 所得区分により負担	・所得で区分されているので公平 ・パスを見せれば乗車できるので使用が簡便	・市財政を圧迫する
見直し案① 個人負担額の値上げ	・市費負担を抑えられる	・利用者が負担増を実感する ・利用者の負担感からバス交付者が減り、結果的に各交通機関の総乗車人数も減る
見直し案② 75歳へ対象年齢の引き上げ	・市費負担を抑えられる	・75歳では70歳より体力が落ちるため75歳以上になると外出がおっくうになるのではないかと
見直し案③ a. フリーパス方式	・パスを見せれば乗車できるので使用が簡便 ・所得に対する差別はない	・フリーパスの値段が一律だと負担増になる人が出てくる。バス代を一括で払うのも大変 ・交付率が低下し総乗車人数が減るのではないかと ・所得による区分がないのは不公平
b. ワンコイン式	・利用しない人は支出もないため公平 ・週1回～月数回利用する人は、定額で負担するより支出が少ない	・乗車ごとに100円を出す手間がかかる
ワンコインとフリーパスの併用	・乗る回数によって、利用者が選択できる	・自分はどちらがいいのか選択しづらい(どちらが得か)

【学生インターンによる考察】

今回のアンケートで、敬老パスを利用する人は、パスがあることで外出の機会が増え仲間と会ったり買い物に行きやすくなり、生活を楽んでいるという意見が最も多く、敬老パスの本来の目的が果たされている、ということがわかりました。制度については、現行制度のままが最も良いが財政難を考えれば見直し案③のいずれかがいいのではないかと、という意見が多かったです。そこで、本来の目的にかなない、見直し案③についてさらに深く考えて、「一律フリーパスとワンコイン式の選択方式」と「敬老パスと高齢者レジャーの提携」というアイデアを考察しました。

「一律フリーパスとワンコイン式の選択方式」…フリーパスを年単位ではなく、1・3・6・12カ月など、月単位で購入できるようにする。

メリット：利用者が状況に応じてパスを購入できる。ワンコインと比較しやすい。

「敬老パスと高齢者レジャーの提携」…外出する機会や場を増やすために市内の各種レジャー施設と提携し、敬老パスを見せることで割引を受けられるなどの付加価値を付ける。

メリット：お徳感により、高齢者の社会参加を後押しできる。商店街などと提携できれば地域や商店街の活性化、経済効果アップにつながる。高齢者が家族と一緒に外出する機会も増え、コミュニケーションのさらなる多様化も図れるのではないだろうか。

【古川直季の考え】

敬老パスが利用者の役に立っているということはよく分かったが、一方で、パスを利用できる交通機関は全く利用しないという方からも多くの回答をいただいた。また、所得の差や納税額の差を両面から考慮するべきだという意見や、子どもたちの世代に負担させないようにしてほしいという意見も多かった。ご意見はさまざまであり、公平性、利用者の状況、市財政の状況など多面的に考えていく必要があると感じた。現在の利用者はパスを使つての外出を楽しみにしており、敬老パス制度の目的にかなっていることは良かったと思う。今後、市財政と利用者の状況、公平性等のバランスを考え、決めていくべきだと感じた。学生の考察も参考にしたいと思う。ご意見をありがとうございました。